



「アシスト」

先日番組の中でこんなやりとりがありました。お料理のコーナーでの出来事です。

聞き手：じゃがいもにも確か灰汁ありますよね、白くなる場所ですよ。やっぱり揚げると灰汁がぬけるんですか？

お料理の先生：あー・・・（微笑みながら否定も肯定もせず）でんぷんね。でんぷん。じゃがいもや人参などは揚げると甘みが増すのよね・・・。

このコーナーでは、春野菜である「ふきのとうの天ぷら」の話をしていて、なぜ天ぷらかというと春野菜は不思議と揚げると灰汁などがぬけるということを説明しておりました。「ふきのとう」を揚げると灰汁がぬけるならじゃがいもならどうなのか・・・ということからの質問でしたが、聞き手のほうは灰汁とでんぷんを混同してしまっただけです。そのお料理の先生はきちんとじゃがいもの白いところは「でんぷん成分」とサラリと訂正しながら流れるように話しを続けていきました。見事です！パチパチパチ（拍手）

相手がなにか間違っただけを言っているときや自分と意見がちがう時にどんな風にそれを説明していますか？頭から「それは間違っています。あなたが言っているのはコレですよ・・・」など、まず否定から始まっていませんか？もしも、あの時のお料

理の先生の答えが「何を言っているの？ジャガイモの白い部分は灰汁ではなく、でんぷんよ。」とバシッと行ってしまえば、聞き手の方が「アー間違えたんだな」という印象が強くなりますよね。私は番組を聴きながら、優しい受け方だなあ、相手をキチンと立ててくれる人だなあと感じました。心地よい会話を続けるために必要なことは、相手を立てる、相手の立場で話すことが大切。会話はキャッチボール、いい言葉を送ればいい言葉が返ってくるものです。さらに、相手に不快な思いをさせず、相手を尊重しながら、自分の意見を言えるテクニクがあれば仕事はもとより、プライベートのあらゆる面でも生かせることまちがいないだと思います。

ラジオ番組等で、よく男女ペアの番組が進行することがあります。男女のペアの場合たいてい、男性がメインパーソナリティーとなり、女性がアシスタントという立場になります。通常メインパーソナリティーが注目されますが、この注目されるか否かまた番組がスムーズに進行するかどうかというのは、実はアシスタントの存在も大変大きいのです。例えば、メインパーソナリティーが言いたい放題（毒を吐くともいいますが・・・）したとしても、メインパーソナリティーをうまくフォローしながら

つもちゃんの

ドト  
バタ  
ラジオ日記

番組をどんどん進行していくアシスタントがいたとすれば最強です。アシスタントに求められる素質は出しゃばらず頭の回転が速く、臨機応変に何事にも対応でき、さらに言葉に優しさがある人。名アシスタントと呼ばれる人はやはり人柄もよく、人の気持ちがわかる人であったように思います。ふと「アシスト＝サポート」について考えてみました。

私も日常の様々な時間、場所でアシストしたりアシストされたりしています。いい仲間のもといい仕事を、よき家族のもと健やかに暮らしをと願うとき、果たして私はいいアシスタントだろうかと考えます。アシストされてばかりではないだろうか？と感じます。一人でできることは限られているとわかっていても、つついひとり突っ走ってしまうそんな3月を迎えております。

## お す す め 取材日記

### 「加藤洋ラン園」

高松市多肥上町にある洋ラン専門のお店です。となりのハウスではたくさんのランの花が咲き乱れておりました。そう、まさに産地直送のお花屋さん。加藤さんご夫婦が愛情こめて育てられた花には勢いがあるように感じました。

アレンジは奥様担当、タイで買い付けたラッピング用紙はとてもエキゾチック＆カラフルとても素敵でした。

<場所> 高松市多肥上町561

<電話> 087-889-2820

